

## 令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立築瀬小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

#### 4 本校の実施状況

|      |    |     |    |     |    |     |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 81人 | 算数 | 81人 | 理科 | 83人 |
| 第5学年 | 国語 | 75人 | 算数 | 75人 | 理科 | 76人 |

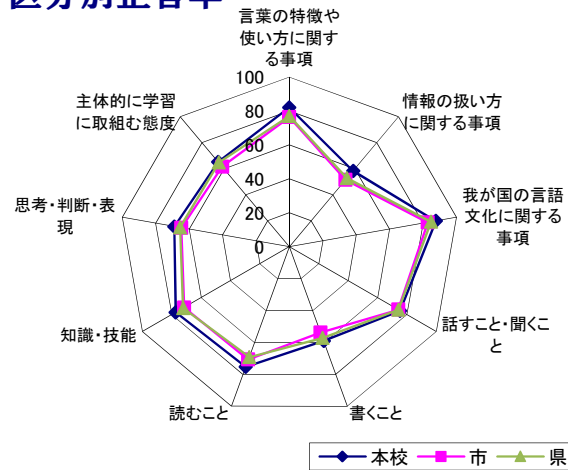
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 82.1 | 76.4 | 77.0 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 58.4 | 51.5 | 52.7 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 87.7 | 82.8 | 84.7 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 75.3 | 74.1 | 74.2 |
|     | 書くこと             | 59.1 | 53.7 | 57.2 |
| 観点  | 読むこと             | 75.3 | 70.7 | 69.2 |
|     | 知識・技能            | 77.4 | 71.6 | 72.3 |
|     | 思考・判断・表現         | 68.8 | 64.6 | 65.4 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度    | 65.2 | 61.6 | 64.7 |



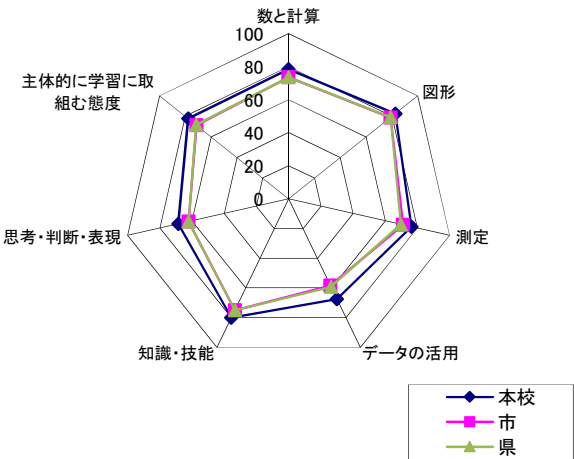
★指導の工夫と改善

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                                                               | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                                      |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 平均正答率は82.1%と、市の平均と比べて5.7ポイント高い。<br>○漢字の「書き」、「主語・述語」、「語彙の理解」に関しては、市の平均正答率を上回り、正答率も高かった。<br>○●漢字の「書き」については、市の平均正答率を上回っていたが、「読み」については、画数が多かったり複数の読み方をしたりするもので正答率が下回っていた。<br>●「ローマ字」においては、正答率が55.6%であった。 | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・漢字の読み書き、主語・述語、語彙においては、引き続き指導し、さらに力を伸ばしていく。具体的には、漢字練習だけでなく習った漢字を使って文章を書く機会を増やす等工夫していく。また、ローマ字においては、書くことに力を入れ、定着が図れるよう繰り返し指導していく。                                                  |
| 情報の扱い方にに関する事項    | 平均正答率は58.4%と、市の平均正答率と比べて6.9ポイント高い。<br>○全ての項目で市の平均正答率を上回っていた。<br>●情報と情報の関係を理解し、要約したり関係性を明確にしたりすることについての平均正答率が58.0%、42.0%と低かった。                                                                        | ・引き続き日常的に国語辞典を活用し、国語辞典の使い方がさらに身に付くようにしていきたい。また、集めた情報を取捨選択し、活用する力を高められるように、国語以外の教科(社会や総合等)の調べ学習等を生かし、正しく情報を捉えられるよう引き続き支援していきたい。                                                                                |
| 我が国の言語文化に関する事項   | 平均正答率は87.7%と、市の平均と比べて4.9ポイント高かった。<br>○漢字の偏やつくりに関する設問では、平均正答率は87.7%であった。                                                                                                                              | ・漢字練習等で、偏やつくりを意識した学習を引き続き取り入れていく。                                                                                                                                                                             |
| 話すこと・聞くこと        | 平均正答率は75.3%と、市の平均と比べてやや高い。<br>○「話し手が伝えたいことを捉えているか」についての設問では、正答率が84.0%と市の平均正答率を10.2ポイント上回り、話し手が伝えたいことを捉えながら話を聞くことができていた。<br>●「話し手の工夫を捉えているか」についての設問では、正答率が71.6%と市の平均正答率を6ポイント下回っていた。                  | ・話の中心や話す場面を意識して話すよう指導するとともに、話し方の工夫を捉えながら継続的に話す活動を取り入れ、話す力と聞く力を高めたい。                                                                                                                                           |
| 書くこと             | 平均正答率は59.1%と、市の平均と比べて5.4ポイント高い。<br>○●書くことの平均正答率は市の平均正答率を上回っていた。しかし、文章の長さや構成の条件を守って文章を書くことの正答率は低く、定着に個人差が見られた。                                                                                        | ・指定された字数や段落構成で文章を書く取り組みに力を入れてきた。成果が見られるので、継続して指導するとともに、集めた情報を取捨選択し、活用する力を高められるようにしていく。                                                                                                                        |
| 読むこと             | 平均正答率は75.3%と、市の平均と比べて4.6ポイント高い。<br>○物語文も説明文も正答率は、ほとんどの設問で市の平均正答率を上回っていた。<br>●物語文の文章を読んで感じたことや考えたことを選択する設問では、市の平均正答率を2.2ポイント下回り、課題が見られた。                                                              | ・説明文の学習では、段落ごとの要点を捉えたり、段落相互の役割や関係を理解したりしながら、論理性を読み取っていく。また、社会科や総合的な学習の時間などに関連させて教科等横断的な学習を通して、様々な文章に触れる機会を増やし、要約しまとめる力などが高められるようにしたい。<br>・物語文の学習では、場面の展開や登場人物の描写に着目しながら丁寧に読み取り、自分の考えと友達の考えを比較して考えられるよう指導していく。 |

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算          | 78.4 | 73.5 | 73.6 |
|     | 図形            | 82.7 | 79.0 | 79.1 |
|     | 測定            | 76.3 | 71.1 | 69.8 |
|     | データの活用        | 67.5 | 58.4 | 59.2 |
| 観点  | 知識・技能         | 80.0 | 75.0 | 75.0 |
|     | 思考・判断・表現      | 68.6 | 62.1 | 62.1 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 77.8 | 71.4 | 71.6 |



★指導の工夫と改善

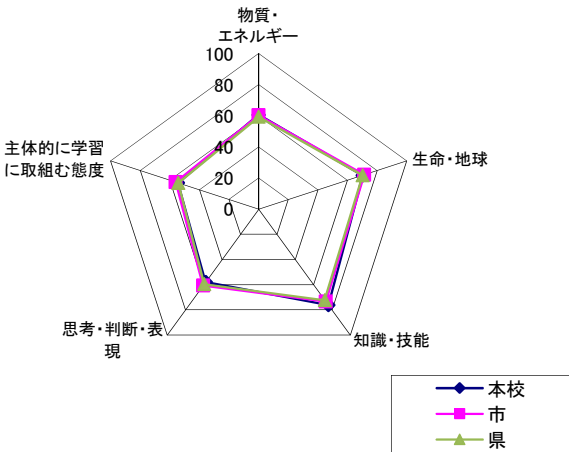
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                          | 今後の指導の重点                                                                                                                                         |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率は78.4%と、市の平均と比べて4.9ポイント高い。<br>○ほとんどの設問で市の平均を上回っている。特に、小数の計算では、市の平均正答率よりも15ポイント以上高かった。<br>●繰り上がりや繰り下がりが複数回のあるたし算・ひき算の設問では正答率が72.8%で、市の平均正答率を5.7ポイント下回っていた。                  | ・計算の反復練習を継続して行うとともに、コース別学習や個別指導を行う中で、継続的に一人一人に応じた指導を行っていく。基礎的・基本的な知識・技能の定着を基にして学習が積み重なっていくよう授業の見直しを行い、児童が既習の計算の形から、新たな計算の形が作れるよう日々指導していく。        |
| 図形     | 平均正答率は65.3%と、市の平均と比べて12.6ポイント高い。<br>○すべての設問で市の平均正答率を上回っていた。<br>○●正三角形の作図の正答率は92.6%と市の平均正答率を大きく上回っていた。しかし、他の設問と比べ無回答の児童が多く、個人差が見られた。                                             | ・図形に関する見方や感覚が豊かなになるよう日々指導を繰り返すとともに、作図に苦手意識をもっている児童に対して、定規やコンパスの正しい使い方を教えるなど、個別指導を図っていく。                                                          |
| 測定     | 平均正答率は76.3%と、市の平均と比べて5.2ポイント高い。<br>○文章から時間を求める設問については80.2%の正答率で、市の平均正答率よりも大きく上回っていた。また、はかりの目盛りを読み取って量を求める設問では正答率が75.3%で、市の平均正答率よりも12ポイント以上、上回っていた。<br>●単位換算の設問では、正答率が56.8%であった。 | ・基礎的な内容は身に付いているので、引き続き基礎・基本の定着を図り、さらに発展的な様々な問題に取り組ませるようにすることで、活用する力や思考力を高めていく。<br>・単位換算に苦手意識をもっている児童に対して、もう一度学習内容を振り返り、身近な生活と結び付けて考えられるよう指導していく。 |
| データの活用 | 平均正答率は67.5%と、市の平均と比べて9.1ポイント高い。<br>○表と棒グラフから情報を読み取る設問については、市の平均正答率を全て上回っていた。<br>●この領域の設問では、無回答の割合が他の領域よりも多かった。                                                                  | ・今後も数多くの問題を解くことによって、提示されている表とグラフをよく読み取り、データの見方に慣れるようにしていく。また、問題を読み取る力を伸ばすために、文章問題に触れる機会を多く設け、日々繰り返し指導していく。                                       |

宇都宮市立築瀬小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 物質・エネルギー      | 60.6 | 60.2 | 59.2 |
|     | 生命・地球         | 70.3 | 71.3 | 70.3 |
| 観点  | 知識・技能         | 76.2 | 73.4 | 72.3 |
|     | 思考・判断・表現      | 57.8 | 60.6 | 59.6 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 54.5 | 55.9 | 54.2 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                                              |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は60.6%と、市の平均と比べて0.4ポイント高い。</p> <p>○「じしゃくのせいしつ」では、「磁石につくものとつかないもの」を選ぶ設問や「磁石の極を確かめる方法を選ぶ」設問ではそれぞれ正答率が市の平均正答率と比べて6.0ポイント、10.4ポイント上回っていた。</p> <p>●「風やゴムのはたらき」では、「実験の結果から、風のはたらきについて推測することができる」に対する正答率が80.7%であるが、市の正答率より、7.3ポイント下回っていた。</p> <p>○●「音のせいしつ」では、「音の大きさによって輪ゴムのふるえ方の違い」を選ぶ設問では、正答率が85.5%であり、市の平均正答率を14.1ポイント上回っていた。その一方、糸電話の糸をつまむと音が伝わらない理由を説明する記述の設問では、正答率が44.6%で市の平均正答率より4.4ポイント下回っていた。</p> | <p>・風や音のはたらきなど実感を伴って理解しにくい内容については、生活の中で、それらの性質が使われている物や場面を紹介しながら授業を進めるなどの工夫をし、身近な場面と関連させながら捉えられるようにする。</p> <p>・実験の結果や考察を自分の言葉でまとめる活動を繰り返し行うことで、説明する力や質問の意図を捉える力を育てる。</p>                              |
| 生命・地球    | <p>平均正答率は55.3%と、市の平均と比べて4.5ポイント高い。</p> <p>○「こんちゅうの育ち方」の完全変態と不完全変態の昆虫についての設問の正答率は80.7%と市の平均を5.7ポイント上回っていた。</p> <p>●「植物の育ち方」では、「ホウセンカの成長した期間をグラフから読み取る」設問の正答率は68.7%と、市の正答率と比べると7.2ポイント下回っていた。</p> <p>○●「こん虫のからだのつくり」では、「昆虫のあしは胸についていることを理解している」ことを選択肢から選ぶ設問で、正答率85.5%と市の平均正答率を4.8ポイント上回っていた。しかし、ダンゴムシの絵からそれが昆虫でないことを説明する記述式の設問では、正答率が55.4%となり市の平均を13.3ポイント下回っていた。</p>                                         | <p>・植物の育ちや昆虫の体のつくりについては、基礎的な内容を確認し、定着を図っていきたい。</p> <p>・生命・地球の領域でも、知識・技能に優れた面が見られる。一方で、この領域でも図やグラフ、記録カードから読み取る問題について課題がある。単元のまとめを自分たちで作った観察カードや実験結果を使って読解し、考察する活動等を取り入れて、児童が身に付けた知識を活用できるよう指導していく。</p> |

## 宇都宮市立築瀬小学校 第4学年 児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習について、「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」と80%近くの児童が肯定的回答をしており、前向きに学習に取り組んでいることが分かる。

●「自分の考えを文章にまとめて書くこと」や「友達の前で自分の考えや意見を発表すること」を苦手としている児童が多い。書く活動では、文章の「型」を示したり、書く機会を意図的に設けたりしていく。また、話す活動では、皆の前で発表する前に、ペアで話し合わせるなど、抵抗感を減らす工夫をしていく。

○●家庭学習について、平日は、学校で目安にしている時間を守って学習している児童がほとんどであるが、「30分より少ない」「全くしない」と回答している児童もいる。学校が休みの日になると、ほとんど学習していない児童が多いことから、家庭学習ファイルに日々の学習内容や時間について記録させるとともに、家庭学習の目的と内容、目安の時間等を児童に指導していく。また、家庭と連携が図れるように保護者会等で協力を呼び掛ける。

○学校生活においては、「学校のきまりを守っている」「学校での役割や仕事に責任をもって取り組んでいる」に肯定的回答をした児童の割合が市の平均と比べて大きく上回っている。さらに、きまりの中で、児童が工夫して活動できるよう、活動の機会を確保していく。

○「毎日、朝食を食べている」「早寝、早起きを心掛けている」等の肯定的回答の割合が高く、安定した学校生活につながっていると考えられる。

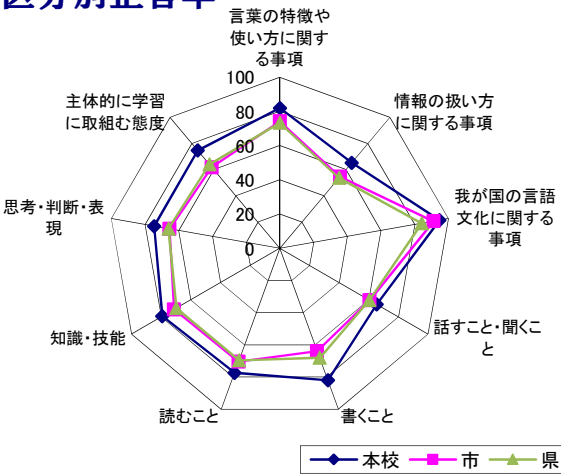
●平日、テレビを見たりゲームで遊んだりする時間が2時間を超える児童が30%以上いる。学習や読書の時間にも充てられるよう、家庭へも働きかけていく。

○●「自分にはよいところがあると思う」、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」などの肯定的回答の割合が、市の平均と比べて高くなっている。一方で、否定的回答をしている児童もいるので、学級でお互いの良いところを認める機会を意図的に設けていく。今後も学習や生活において、一人一人が活躍できる場を設け、児童一人一人の自己肯定感が高められるよう、働きかけていく。

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分               | 本年度  |      |      |
|-----|------------------|------|------|------|
|     |                  | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 82.0 | 74.2 | 73.3 |
|     | 情報の扱い方にに関する事項    | 65.3 | 54.7 | 53.8 |
|     | 我が国の言語文化に関する事項   | 94.7 | 91.2 | 84.2 |
|     | 話すこと・聞くこと        | 65.3 | 60.6 | 60.4 |
|     | 書くこと             | 82.0 | 63.8 | 68.0 |
|     | 読むこと             | 77.3 | 70.4 | 69.6 |
| 観点  | 知識・技能            | 79.3 | 71.3 | 69.9 |
|     | 思考・判断・表現         | 74.6 | 65.4 | 66.1 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度    | 74.7 | 61.9 | 64.0 |



★指導の工夫と改善

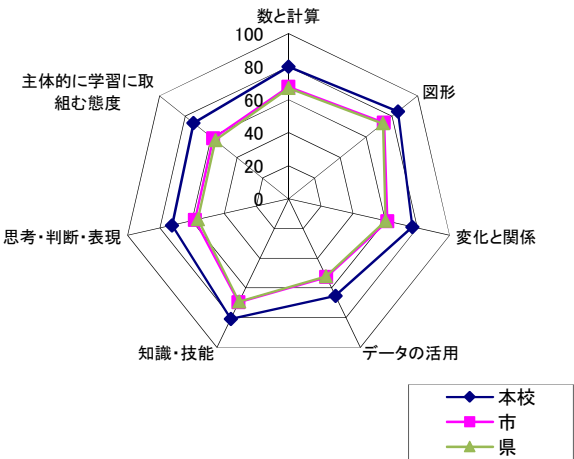
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分            | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                   | 今後の指導の重点                                                                                                                                    |
|------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言葉の特徴や使い方にに関する事項 | 平均正答率は、市と比べて7.8ポイント高い。<br>○●漢字の「書き」については、市の平均正答率を上回っていたが、「読み」については、児童が日常生活で目にする漢字でも、画数が多かったり複数の読み方をしたりするもので、他と比べて正答率が低い傾向があった。                                                                           | ・引き続き国語辞典に慣れ親しむ機会を設けながら、言語感覚を豊かなものにしていく。また、学習した漢字を確実に身に付けられるようにするために、繰り返し練習するだけでなく、漢字を使って熟語作りを行ったり、短文を作成したりする学習活動を行っていく。                    |
| 情報の扱い方にに関する事項    | 平均正答率は、市と比べて10.6ポイント高い。<br>○ほとんどの項目が市の平均正答率を上回っていた。<br>●理由や事例などを挙げながら記述する設問は、49.3%であった。                                                                                                                  | ・情報と情報の関係について理解し、段落相互の関係を捉える学習を丁寧に進め、得られた情報から理由を考えたり比べたりして記述する力を高められるよう指導する。また、国語以外の教科でも、正しく情報を捉えられるように引き続き支援していく。                          |
| 我が国の言語文化に関する事項   | 平均正答率は、市と比べて3.5ポイント高い。<br>○「ことわざの意味を知り、正しく使っている。」という項目に関しては、市の平均正答率と同程度であった。                                                                                                                             | ・分からない言葉や漢字を辞典で調べる機会を増やしたり、ことわざを使って例文を書いたりする学習活動を取り入れていく。                                                                                   |
| 話すこと・聞くこと        | 平均正答率は、市と比べて4.7ポイント高い。<br>○話すこと・聞くことの正答率は、市の平均正答率と同程度が高くなっていた。特に、「話し手が伝えたいことがらを捉える。」という項目の正答率は92.0%で市平均正答率より8.9ポイント高かった。<br>●話し手の工夫を捉えたり、理由や事例を挙げて話したりする項目において、県の平均正答率を上回っていたものの、他の領域に比べて低く、無回答の割合も高かった。 | ・自分の考えを明確にした上で、根拠を示しながら考えを伝え合う学習を意図的に取り入れたり、朝の会や総合的な学習の時間などの国語以外の活動でも、継続的に話す活動を取り入れたりすることで、話す力を高めたい。                                        |
| 書くこと             | 平均正答率は、市と比べて18.2ポイント高い。<br>○自分の考えやそれを支える理由を明確にして文章を書くことの正答率は85.3%と市の平均正答率を10ポイント以上、上回っていた。                                                                                                               | ・今後も書く力を高めていくために、短い分量から書き始めたり書き方の型を示したりするなどの工夫を行い、指定された長さや段落構成で文章を書く練習を取り入れ、継続的に指導していく。                                                     |
| 読むこと             | 平均正答率は、市と比べて6.9ポイント高い。<br>○物語文、説明文の正答率は、市の平均正答率を上回った。<br>●説明文の文章を読んで分かったことや考えたことを選択する問題では、市の平均正答率を2.2ポイント下回り、課題が見られた。                                                                                    | ・国語の授業の中で、事実と感想、意見などとの関係を踏まえ、文章全体の構成を捉える学習や人物の気持ちや文章の内容を叙述を基に捉える学習を丁寧にやっていく。<br>・物語文の読み取りについては、読み聞かせや読書の効果が表れていると思われるので、引き続き本に親しむ機会を増やしていく。 |

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 数と計算          | 80.0 | 67.8 | 67.0 |
|     | 図形            | 84.8 | 73.9 | 73.1 |
|     | 変化と関係         | 76.9 | 61.4 | 60.2 |
|     | データの活用        | 65.3 | 52.7 | 52.1 |
| 観点  | 知識・技能         | 80.8 | 69.7 | 69.2 |
|     | 思考・判断・表現      | 72.4 | 58.1 | 56.3 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 73.7 | 58.5 | 56.7 |



★指導の工夫と改善

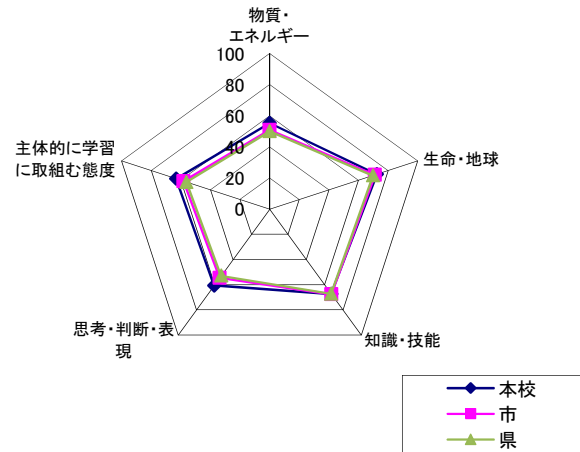
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分  | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                       | 今後の指導の重点                                                                                                                                  |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と計算   | 平均正答率は80.0%と、市の平均と比べて12.2ポイント高い。<br>○ほとんどの設問で市の平均を上回っていた。<br>●概数に対応する数の範囲に関する設問では、正答率は53.6%にとどまり、市の平均正答率と同程度であった。                                                                                            | ・計算の反復練習を継続して行うとともに、習熟度別学習や個別指導を行う中で、継続的に一人一人に応じた指導を行っていく。<br>・概数の意味を理解し、目的に応じて概数処理をしたり、概数を用いて計算の見積りをしたりして、概数を用いることのように気付くことができるよう指導していく。 |
| 図形     | 平均正答率は84.8%と、市の平均と比べて10.9ポイント高い。<br>○すべての設問で市の平均正答率を上回った。特に、ひし形の作図の正答率は96.0%と市の平均正答率を10ポイント以上、上回っていた。<br>●1000円札の面積を求める設問では、正答率が52.0%と他に比べると低かった。                                                            | ・応用として、様々な問題に取り組めるようにし、考えたことを説明したり記述したりする学習を積み重ねる中で、学んだことを活用する力が育つようにしていく。                                                                |
| 変化と関係  | 平均正答率は76.9%と、市の平均と比べて15.5ポイント高い。<br>○「基準量と比較量から求めた割合を比較して説明する」記述式の設問では、正答率が74.7%と市の平均正答率を30ポイント以上、上回っていた。<br>●「伴って変わる2つの数量の関係を、式に表す」設問では、正答率が52.0%であった。                                                      | ・2つの数量の関係について指導する際、表の数値を縦や横に関連付けてみると変化の規則性が見えてくること、それを基に言葉の式を考えることなど、順を追って丁寧に指導し、児童が考え方の手順を理解できるようにしていく。                                  |
| データの活用 | 平均正答率は65.3%と、市の平均と比べて12.6ポイント高い。<br>○すべての設問で市の平均正答率を上回った。特に、二次元表を読み取る設問の正答率は68.0%と市の平均正答率を16.4ポイント上回っていた。<br>●平均正答率は65.3%で、他の領域と比べると課題が見られた。<br>●折れ線グラフの理由付けをして説明を記述する設問の正答率は46.7%と、市の平均正答率を15ポイント以上、上回っていた。 | ・資料を分類整理して表にまとめたり、その特徴を調べたりする能力を高める力が身に付くような学習活動を行っていく。また、説明する際に使う言葉を指導し、説明の仕方の手順を身に付けられるようにしていく。                                         |

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類  | 区分            | 本年度  |      |      |
|-----|---------------|------|------|------|
|     |               | 本校   | 市    | 県    |
| 領域等 | 物質・エネルギー      | 55.3 | 50.8 | 50.0 |
|     | 生命・地球         | 72.5 | 71.1 | 69.8 |
| 観点  | 知識・技能         | 67.4 | 67.6 | 67.2 |
|     | 思考・判断・表現      | 60.7 | 54.5 | 52.9 |
|     | 主体的に学習に取り組む態度 | 63.2 | 58.1 | 56.2 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分    | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 今後の指導の改善                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 物質・エネルギー | <p>平均正答率は55.3%と、市の平均と比べて4.5ポイント高い。</p> <p>○基礎的用語や基本的な知識を問う設問は、高い正答率であった。</p> <p>○物の体積と力で、圧し縮めても水の体積が変わらないことを豆腐の容器に適用できるかどうかの設問では、正答率が64.5%であり、市の平均正答率を20ポイント以上、上回った。</p> <p>●電気のはたらきに関する設問では、電流の流れに関する正答率が19.7%と低かった。</p> <p>●水のすがたについての設問の正答率は51.3%で、市の平均正答率と比べて12.3ポイント低かった。</p> <p>●電車の冷房と暖房の吹き出し口の位置が異なる理由を空気のあたたまり方をもとに考えて説明する設問の正答率が47.4%と低く、無回答も多かった。</p> | <p>・自分の考えを書く活動を意図的に位置づけ、それを基に話し合い活動を行ったり、自分の考えをまとめて整理したりすることで、必要な用語を適切に使って説明することができるよう、継続指導していく。</p> <p>・授業で行った観察や実験から得られた結果やきまりを基に、別の条件での実験や観察の結果を類推する学習も取り入れ、応用する力を伸ばしていく。</p>                                                                                                                            |
| 生命・地球    | <p>平均正答率は72.5%と、市の平均と比べて1.4ポイント高い。</p> <p>○グラフからヘチマのくきののびと気温の変化の関係を読み取り説明する設問の正答率は84.2%で、市の平均正答率より6.2ポイント上回っていた。</p> <p>●1日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、その理由を説明する設問の正答率は47.4%で、市の平均正答率より9.2ポイント下回っていた。</p>                                                                                                                                                               | <p>・実験や観察をして得られた結果をまとめて終わるのではなく、なぜこのような結果になったのかの理由について思考させ、自分の文章でまとめる学習を通して、事象とその結果の間にあるきまりを理解できるようにする。その際には、用語を適切に使えるよう、引き続き指導していく。</p> <p>・2つの事象を同時に比較検討する際に、それぞれの条件を整理し、各事象の特性を考慮しながら思考を進める学習方法を、単元の特性に合わせて取り入れていく。</p> <p>・既習の内容や生活経験をICT 機器を活用して提示することで、学んだことを自然現象を観察する際や日常生活の中で活用することができるようにしていく。</p> |

宇都宮市立築瀬小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○宿題については、量がちょうどよく自分にとって大切なものと考えている回答が95%を超えていること、ほとんどの児童が宿題を行っていることから、宿題をする習慣が身に付いている児童が多いことがうかがえる。

●本校の高学年の学習時間の目安である1時間30分以上の家庭学習に取り組むことができている割合が、平日・休日ともに70%前後に留まっている。宿題の量が適度だと感じている児童が多いので、家庭での生活の仕方を振り返ってよりよく改善したり、自主学習の内容を工夫したりするよう指導をすることで、十分な学習時間を確保させたい。

○●授業では、「自分の考えを発表する機会が与えられている」「クラスの友達との間で話し合う機会をよく行っている」という肯定的回答の割合が90%を超えている。一方で、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」が80%を下回っている。自分の考えを伝える機会がありながらも、消極的な様子を感じられる。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」は60%を下回っており、言葉で表現することへの苦手意識の高さがうかがえる。発表する活動を多く取り入れたり、よい考えを大いに称賛したりするなどして成功体験を重ねることで自信をもたせ、友達同士でよりよい学び合いができるよう指導していきたい。

○学習について、「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」、「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」と90%以上の児童が肯定的に回答しており、前向きに学習に取り組んでいることが分かる。

●算数と理解において、「授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」の肯定的回答の割合が県や市の平均よりも下回っている。授業において、日常生活との関連を意識して指導することで、日常生活との関わりについて目を向けようとする態度を育てていきたい。

○●学校生活については、「学校のきまりを守っている」の肯定的回答の割合は90%を超えており、規範意識の高さがうかがえる。これは、集団生活をする上で大変重要なことであるので今後も伸ばしていきたい。「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」の割合も90%を超え、高いポイントを示している一方で、自分がクラスの人に役立っていると思えていない児童が40%程いる。係や当番活動などにおいて、児童の頑張りを見落とさないよう心掛け、適時に頑張りを認めることで児童の自己肯定感を高めていきたい。

●「早ね、早起きを心がけている」の肯定的回答の割合は県や市の平均を下回っており、意識して早ね早起きをしている児童は40%程に留まっている。時間の使い方や日常の生活習慣を考える機会を多く設けたり、保護者に協力を依頼したりすることで、生活時間の見直しを図りたい。

○90%以上の児童が将来の夢や目標をもち、将来について考えることができています。また、家の人と将来のことについて話すことがある割合は7割程であるが市や県の平均を上回っており、児童が将来に関することを保護者と一緒に考え共有していることが分かる。今後も、将来について考えたり、目標をもって様々な活動に取り組んだりする機会を増やしていきたい。

宇都宮市立築瀬小学校（第4・5学年共通）  
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                                                                          | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                      | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・基礎的・基本的な知識及び技能の定着とともに、文章の内容を正しく読み取る力の育成。<br>・主体的に自分の考えや思いを表現する力の育成<br>・個人差への対応 | ・基礎的・基本的な定着を図るために、学習内容の定着と学び方・考え方の定着の要素を考えた授業を展開していく。<br>・国語だけでなく、あらゆる教育活動において、文章の内容を正しく読み取り、根拠をもとに自分の書く活動を取り入れていく。<br>・単元を通して、計画的・意図的な繰り返し学習を設定し、児童の学習状況を理解した上で個に応じた指導を行っていく。 | ・漢字、計算、国語における読む領域、書く領域についての調査結果は向上してきた。しかし、漢字では「書く」ことの正答率が70%前後で市の平均正答率より5ポイント以上低いものがあった。また、計算においては、整数と小数の加法・減法の正答率が65%前後であり、十分身に付いたとは言えない。<br>・記述式の設問の正答率は、他の設問に比べどの教科も低めであった。特に、字数や段落に制限がある設問の正答率は低く、市の平均を大きく下回るものもあり、さらに継続した指導が必要である。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                              | 重点的な取組                                   | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ・自分の考えや読み取ったことを文章で表したり、説明したりする力の向上。<br>・書く力の向上と話し合いの仕方、ノートの取り方・まとめ方などの指導。 | ・字数や段落等、表し方の条件に合うよう文章で表したり説明したりできるようにする。 | ・国語の読み取りの学習の中で、字数を意識させる前に読み取る学習をし、読み取ったことを字数や段落など条件を与えてまとめる学習をしていく。<br>・算数の学習の中では、自分の考えを書かせる際、他の人にも分かるように短く順序立てて書くことを児童が意識できるよう指導していく。<br>・教科に関わらず話す・書く活動で、伝えたいことの内容を明確にした上で表現するよう指導していく。<br>・あらゆる教育活動で、自分の書いたものを見直す習慣を身に付けることができるよう指導していく。 |